

社会福祉法人
松青福祉会

障害児通所支援施設 (鹿児島市)

構造	木造2階建	建築面積	142.12㎡	延床面積	206.96㎡
事業費	36,328千円	補助金	18,164千円	木材使用量	57.90㎡
完成年月日	平成27年3月15日	工期	平成26年9月2日～平成27年3月15日（195日間）		

事業主体 社会福祉法人 松青福祉会
理事長 松元 公志郎

施設名称 児童発達支援事業所 支援ハウス まつぼっくり
〒891-0141 鹿児島市谷山中央4丁目4934-2
TEL 099-230-7300 FAX 099-230-7353

施設管理者 管理者 松元 早苗
TEL 099-230-7300 FAX 099-230-7353

設計事務所 (株)東条設計
〒892-0803 鹿児島市祇園之州町43番地
TEL 099-248-2251 FAX 099-248-2261

施工業者 (株)前屋敷組
〒890-0072 鹿児島市新栄町1-15
TEL 099-255-6166 FAX 099-251-5891



◆施設の概要

鹿児島県産材をふんだんに使用した建物で、子ども達が木の温もりを感じながらいきいきと活動できる施設である。

支援ハウスまつぼっくりは発達に何らかのつまづきや遅れを示す就学前の児童に対し、日常生活における基本的な指導や知識技能の付与、集団生活への適応訓練、その他必要な支援を行い、個々の児童の成長、発達を促すと共に経験を豊かにすることで円滑な社会生活へつなげることを目的とする。

◆設計のコンセプト

『木の温もりに包まれる空間』をコンセプトに、子供たちが木の温もりを感じながら、いきいきと活動できる施設を設計した。

敷地は住宅街の中にあり、周囲の景観にとけこみ、発達支援施設である雰囲気を感じさせない建物のボリューム・外観デザインとし、子供たちの施設らしい遊び心を内部空間で木やガラスブロックを用いて表現した。主な活動の場となる指導訓練室は死角のない整形な形状とし、大きな吹き抜けを設けることで、2階の事務室・相談室からも見守りができる計画とした。

内装には木材を積極的に採用し、子供たちが直接木の温かみに触れることができるようにした。



外 観



指導訓練室



応接室



事務室



階段・滑り台

社会福祉法人
あすなる福祉会

障害児通所支援事業所 (指宿市)

構造	木造2階建	建築面積	631.30㎡	延床面積	1,161.27㎡
事業費	162,788千円	補助金	81,394千円	木材使用量	229.17㎡
完成年月日	平成27年3月15日	工期	平成26年9月10日～平成27年3月15日 (187日間)		

事業主体	社会福祉法人 あすなる福祉会 理事長 山本 森満	
施設名称	総合支援センターわかば(児童発達支援センター) 〒891-0402 指宿市十町1814番 TEL 0993-26-3502 FAX 0993-26-3503	
施設管理者	施設長 山本 秀樹 TEL 0993-26-3502 FAX 0993-26-3503	

設計事務所	(有)千匠設計 〒890-0055 鹿児島市上荒田町7-5-405 TEL 099-255-7020 FAX 099-800-2150	
施工業者	(株)前田組 〒892-0848 鹿児島市平之町7番17号 TEL 099-222-6111 FAX 099-239-6260	



◆施設の概要

当該事業所は、幼児期から学齢期にかけての様々な支援を必要とする子どもたちの活動場所となるが、こうした場所に地元産の木材を利用することにより、木材の持つ独特の優しい風合いや暖かみ、力強さ、よい香りなどを実際に手足で触れて直接に感じてもらい、情緒豊かな人間性の形成が図られることが期待される。

また、近隣住民や一般の方にも参加可能な行事を随時開催することとしており、木材利用施設の展示効果が期待できるものである。

なお、当該事業所は指宿市内の別の場所で平成25年4月から営業していたが、今回の建物整備に伴い当地へ移転し、子どもたちの療育に関する地域の中核的な機能を持つ「児童発達支援センター」に移行した。

◆設計のコンセプト

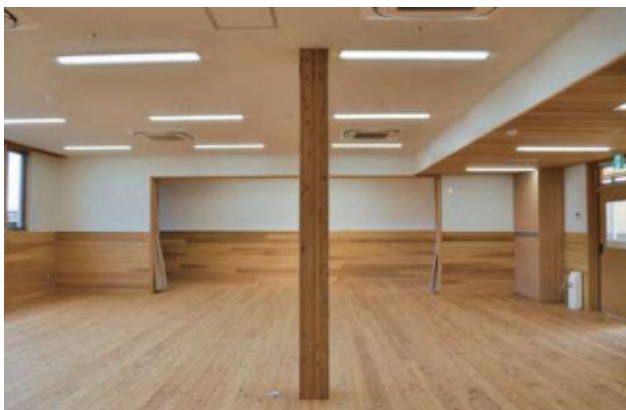
設計コンセプトは、『利用する子供たちや職員の方々が、自然体で楽しく過ごすことができること、同時に安全で人に優しい建物であること』。

- ① 床の仕上げは認証かごしま材の「うづくり」で、直接触れても心地よく、衝撃を和らげてくれる柔軟性と、摩耗にも強い堅牢性を合わせ持つ。
- ② 腰壁や天井にも認証鹿児島材の杉を多用し、人肌に近い光の反射率や色調が利用者に安らぎを与え、調湿効果や消臭効果によりきれいで適温の温熱環境をもたらす。
- ③ 同時にエントランスや遊戯室は曲面を用い、多くの色を配色することで優しさや楽しさも演出した。

木の持つ様々な特性が、人に多くのプラス効果をもたらすように工夫をこらした。



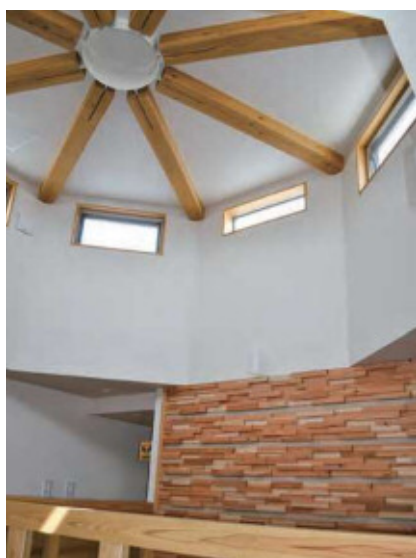
外 観



食 堂



床 (うづくり)



吹 抜



エレベーターホール

阿久根市 子ども発達支援センター (阿久根市)

構造	木造平屋建	建築面積	556.81㎡	延床面積	499.05㎡
事業費	104,204千円	補助金	52,102千円	木材使用量	157.61㎡
完成年月日	平成28年2月26日	工期	平成27年9月2日～平成28年2月26日(178日間)		

事業主体 阿久根市
阿久根市長 西平 良将

施設名称 阿久根市子ども発達支援センターこじか
〒899-1601 阿久根市折口1807番地3

施設管理者 生きがい対策課
TEL 0996-79-3589 FAX 0996-79-3590
TEL 0996-73-1211 FAX 0996-73-0297

設計事務所 橋口建築設計事務所
〒899-1628 阿久根市塩鶴町1丁目124番地
TEL 0996-72-1424 FAX 0996-72-1424

施工業者 (株)タイセイ工務店
〒899-1625 阿久根市波留1074番地1
TEL 0996-72-0014 FAX 0996-72-0031



◆施設の概要

出水地区2市1町(阿久根市, 出水市, 長島町)の発達障害のある未就学児童に対して療育を行う施設であり, 児童発達支援センターとして運営することにより, 質の高い療育を期待する。

また, 木材を多用することによる柔らかな雰囲気の中での療育を行うことにより, 児童のストレスの軽減が見込まれる。

更に, 周辺集落の災害時の避難場所として利用することにより, 周辺への木材利用の展示効果を期待する。

◆設計のコンセプト

規格品の建具を使用することにより, 建設費用及び修理費用の軽減を図り, 大空間等の構造物に, 大断面集成材ではなく, 最低限の鉄骨を使用することにより, 建築費の軽減を図った。

また, 床の高さをGLから50cm高上げして施工することにより, 給排水設備配管のメンテナンスの向上を図り, LED照明を用いることで, 日常のメンテナンスとランニングコストの軽減を図った。

環境の変化に敏感である発達障害のある未就学児童に配慮し, ストレスの軽減を図るため, 木造平屋建てにより, 木材を多用した建築を行い, 併せて, 外通路の柱・天井の木材により, 建物外側からの木材の展示効果を図った。

また, 周辺集落の災害時避難場所とすることにより, 広く住民への周知を図る。



外 観



保育室



集会室



食事室兼談話室



玄関・廊下

学校法人
種子島シオン学園

子育て活動支援施設 (西之表市)

構造	木造平屋建	建築面積	321.54㎡	延床面積	212.25㎡
事業費	61,992千円	補助金	30,995千円	木材使用量	95.82㎡
完成年月日	平成28年3月14日	工期	平成27年9月24日～平成28年3月15日(174日間)		

事業主体 学校法人種子島シオン学園
理事長 圖師 和俊

施設名称 こども・子育て交流センター「シオンヴィレッジ」
〒891-3101 西之表市西之表10054外2筆
TEL 0997-22-1636 FAX 0997-22-2136

施設管理者 マネージャー 川崎 如洋
TEL 0997-22-1636 FAX 0997-22-2136

設計事務所 DORON建築設計事務所
〒891-3117 西之表市桜が丘7779-41
TEL 0997-22-1206 FAX 0997-22-1206

施工業者 (有)高橋建設
〒891-3101 西之表市西之表14468-7
TEL 0997-23-4977 FAX 0997-23-0539



◆施設の概要

子育て世代の方々が子供と一緒に訪れ、子育てに関する情報収集や悩みを気軽に話すことができる場所。様々な体験を通して親子で学び、時には子育て経験者や教育・保育のプロのアドバイスを得ることができる場所。

地域のお年寄りが気軽に立ち寄り、花や野菜を植えたり、郷土料理をふるまったり、子供たちと触れ合える場所。次の親世代である中高生にも幼児との生の触れ合いを体験できる場所として活用する。

◆設計のコンセプト

地区の子育て支援を担う社会教育施設として、初めて木質内装を手がけた。地元のスギ材に直接触れることができるように外壁及び床の木部分に使用。また、化粧となって現れる梁にも地元スギ材を使用した。

屋内空間は梁の架け方、色の使い方、板の張り方、空間の大きさに変化を持たせ、様々な雰囲気の木質空間を演出している。

屋外空間は広々としたウッドデッキを高低差をつけて館や囲み建築群として統一感を持たせ、ベンチや舞台としての活用を図る。



外 観



体験プログラムスペース



図書情報室



キッズスペース



ウッドデッキ